

一、緊急の国際問題と国際連帯について

- ・ イラン攻撃中止、平和の国際秩序の確立を求める国際連帯をよびかける
- ・ 核軍拡競争に反対し、「核兵器のない世界」をめざす国際連帯を

二、総選挙後の政治情勢と日本共産党の役割

- ・ 平和・くらし・人権を脅かすかつてない危険——正面から対決して奮闘する
- ・ 日本共産党への新たな期待、危機に立ち向かう新たな連帯が生まれている

三、平和・暮らし・人権——国民的なたたかいをいかに起こすか

- ・ 「戦争はいや」の思いを土台として「戦争国家づくり」に反対する国民多数派を
- ・ 「富の一極集中」に切り込んでこそ、暮らしをよくする道が開かれる
- ・ ジェンダー平等、人権尊重へ、幅広い連帯を

四、総選挙の総括と教訓——統一地方選挙、次の国政選挙にただちに生かそう

- ・ 「高市・強権政治を許すな」との訴えは党の歴史的眞価を発揮したものだ
- ・ 選挙活動の日常化にかかわる中央のイニシアチブの弱点について
- ・ 党の自力の不足——全党の努力によって前進が開始された途上の選挙となった
- ・ いくつかの問題について——全国からの声にこたえて
- ・ 統一地方選挙・中間地方選挙の勝利をめざして
- ・ 次の国政選挙をめざす日常的取り組み——衆院比例ブロックの活動をただちに強める
- ・ 党大会までに統一地方選挙勝利に必要な活動をやり抜く

五、欧米の左翼・進歩勢力との交流と連帯、理論交流の発展を

- ・ 世界資本主義のゆきづまりと左翼・進歩勢力との連帯の強化について
- ・ マルクス・ブーム——科学的社会主義の理論と運動の発展のために